

会 議 録

会議名 (付属機関等名)	令和2年度第3回(第36回) 川西市参画と協働のまちづくり推進会議		
事務局(担当課)	総合政策部 参画協働課		
開催日時	令和2年12月15日(火) 午後7時00分から午後9時20分		
開催場所	川西市役所2階 202会議室(ウェブ会議システムにより開催)		
出席者	委員	岩崎恭典、田中晃代、藤本真里、横谷弘務、加門文男、鈴木光義、乾美由紀、延命寺陽子、田中真、田中真優、中村佳子、名木田絢子、山澤剛、三善知子、吉尾豊、赤木牧子、金剛丸朋子	
	その他	市民活動センター 三井センター長	
	事務局	総合政策部長、総合政策部副部長兼参画協働課長、同課長補佐、同課主任2名	
傍聴の可否	可	傍聴者数	0人
傍聴不可・一部不可の場合は、その理由			
会議次第	<p>1 開 会</p> <p>2 議 事</p> <p>(1) 令和元年度 川西市参画と協働のまちづくり推進に関する取組状況について</p> <p>(2) 令和2年度 各部会からの中間報告について</p> <p style="padding-left: 20px;">①A部会(ひらいてむすんで)</p> <p style="padding-left: 20px;">②B部会(とりあえずポップコーン部会)</p> <p>3 閉 会</p>		

1 開 会

事務局により進行。

事務局紹介。

配布資料の確認。

岩崎会長により進行。

2 議 事

(1) 令和元年度 川西市参画と協働のまちづくり推進に関する取組状況について

○事務局

- ・ 配布資料に基づき説明

質疑応答

○委員

パブリックコメントについて、件数などは公表されているかと思うが、パブリックコメントの制度についてはあまり知られていないように思う。市としての周知の工夫について具体的なことがあれば教えてほしい。

○事務局

パブリックコメントの制度の周知については、SNSの活用、市の施設でのポスター掲示、広報誌の掲載、また市のホームページへの公開など行っている。

以前は、パブリックコメントが始まってから「パブリックコメント実施中」の周知をしていたが、今回は、パブリックコメントの予定がわかっているものは、事前に実施予定をホームページに公開し、例えばこの審議会の議事録のページや、元の計画のページへ移動できる工夫をしている。

また、パブリックコメント期間中にタウンミーティングを実施しており、その中でパ

ブリックコメントの案内や、その場でパブリックコメントができることを説明している。

○岩崎会長

パブリックコメントは、一般的になってきたので、あえて周知しなくてもよくなってきている。しかし、パブリックコメントは、より意見提出をいただかなければならないので計画策定の初期段階で、今後のパブリックコメント予定を周知するやり方があるのではないかと思う。

○委員

各種データがあるがそれぞれの質が違う感じがする。基礎データの的なもの、これからいろいろ変えていかないといけないもの、あるいは、一つにまとめているが、その中で異質なものが混じっているのではないかと感じる。市民参画を推進するためにこの参画と協働のまちづくり推進会議があるが、市の施策とした時に基礎データだけでなく、注力しないといけないことがあると思う。

(p 11) 「委託と市政モニター」について

委託と市政モニターについては、異質の二つであると思う。委託は大きいことだと思う。市民公益活動団体に委託をしている。今から問われるのは、委託や契約の仕方であったり、今までのような甲乙の関係で、業者と市役所が行なうような同じような契約なら非常に課題は大きいし、実施した事業件数よりも質を問う段階であると思う

(p 12) 「各部局が参画と協働のまちづくりに取り組んでいます」について

参画と協働の取組を行っている担当所管の数の報告だけでいいのか。基本的に、市の施策はたくさんある。今までどおり行っても「参画と協働」と言い換えることができる。どのような取組をしているのかをしっかりと見据えないといけないと思う。

質的なことを問うと、例えば今回の審議会の若者枠を設けたことは画期的なことで、功を奏しているのではないかと思う。

これからの検討課題として、質的変革をもたらしている取組を加えるように考えて頂きたい。

○事務局

委託と市政モニターの種類が違うという意見については、おっしゃるとおりである。以前分類をさせて頂いて、その状態にさせて頂いている。

民間の事業者と市民公益活動団体に対する委託については、契約内容をどの程度のものを求めるかも含めて、検討する必要があるのではないかと思う。市の税金を使うので、適切な品質などを担保するところは担保しながら頂いた意見を参考に検討しないといけない。

また、参画と協働の取組を行っている担当所管の数43課について、「簡単すぎる」という意見に対してはおっしゃるとおりである。一方で市長がいつも言っている「市民とともに歩むまちづくり」を他所管も念頭に置きながら、取り組んでいる。記載の方法は今後検討する。

○委員

(p10) 「ボランティア・NPO連携」について

担い手づくりが関係あると思うが、今後、担い手発掘や人材マッチングが盛り込まれるのだろうか。

○事務局

どこの課でも団体の担い手発掘が課題である。また、参画協働課においても現時点で何か形があるわけではないが、地域の人材マッチングを検討している。

その中で、ボランティアや自分の力を活かしたい方と、手伝ってほしい団体などとのマッチングがうまく進めば、ボランティア・NPO等との連携の実施件数も上昇するのではないかと考える。

○田中B部会長

(p6、p8) 「住民説明会とワークショップ」について

この二つは質が違うものだと思う。表現方法を変えるだけで伝わる形が違うので文

言を変えてほしい。

○委員

(p12) 「今後の取組」について

「様々な場面で、参画と協働の取組について検討することが必要です。」とあり、また先の文章でも繰り返し同じ文言を使っている。担い手の部分を深めて、「やる気」のみえる魅力ある文言で表現をしてほしい。

○事務局

表現一つで伝わることも変わるので伝わる形で表現できたらと思っている。修正できるかわからないが、気持ちとしてはそのつもりでさせて頂く。

○岩崎会長

修正できなくても、議事録として残るので来年度の引き継ぎ事項となる。

(2) 令和2年度各部会からの中間報告について

① A部会（ひらいてむすんで）からの報告及び質疑応答

○部会長より資料に基づき報告

○委員による補足説明

- ・多田コミュニティ会館での防災士の方々とのワークショップが実際役に立った。
- ・コミュニティ運営の悩みがあり、タイミングがよかった。
- ・防災士のメンバーは若手5人で、年齢44～50歳である。ワークショップするまで不安があった。
- ・防災士を取得したことによって、巻き込まれていると思われるのではないかと思っていたが、5人のメンバーは積極的で、自分達のしていることを次の方にどう伝えるか、前向きな意見がたくさん出た。
- ・特に二次元コードは「是非使いたい」「これでみんなに知らせよう」とノリにのってやる気になった。

- ・コロナの影響で避難訓練が中止になり時間が空いたので2度目のワークショップをし、非常によかった。
- ・コミュニティの運営などの担い手不足で悩んでいた時にカードと出会って、まさにマッチングした状態で非常に心強く、設置場所などについてもイベントのある度に「来て欲しいひと」またイベントの内容も「こんな人がきたらいいね」という感覚で多田コミュニティは合意形成が整ってきた。

質疑応答

○B部会員

A部会からの提案で、根付かせるためのしかけについて、コーディネーター、人材育成には、時間とお金がかかると書かれていた。これは、市に対する提案だと思うのだが市はどのように捉えているのか。

○岩崎

三井センター長はいかが思われますか。

○市民活動センター長

有償については、「人件費をつける」ことは大変ハードルが高いかなと思う。行政内で継続していくための人件費をつけて調整していく一方で、自らお金を生みながらこの事業ができる方策を考える必要があると思う。

○事務局

今のところ最終の提言ではなく、今後また提言してお話しただけなのかと思いますのである程度動けるように、来年度の事業の組み立ての中で考えておかなければならないかと思いましたが、戦略を立てていこうと思います。明確なことはこれから検討いたします。

○B部会員

継続や設置場所という点でいうと、高校や学校を検討したのか。川西市の学校に存在するのか不明だが、まちづくり部みたいな部活動で活用してもらうのはどうかとい

う検討はなされたのか。

○A部会員

北陵高校に地域の活動に参加するという科目があって、北陵のスマイルカフェでイベントをした際に協力いただいた。10月頃にコロナで子供たちが外に出られない時があって、高校生が幼稚園にミニ運動会を提案して、自分達でプログラムや、メダルを手作りして、大盛況だった。高校生が活動しているの、それをコミュニティがどんどん取り入れて高校生を応援する、検証会を近々するのでその結果を踏まえて今後どうするのか決めていく。また、家庭科の中の科目としてあるようで、近隣の地域でも同じように協力してやっていくと聞いている。

○岩崎会長

高校のカリキュラムの中に探究というのがあって、地域課題をみつけて解決するというを高校生から経験しようという時間であり、そういう所に地域の方から協力していくというのは重要だと思う。小・中・高と発達段階に応じて掲示できればすごく楽しいだろうと思う。

② B部会（とりあえずポップコーン部会）報告及び質疑応答

○部会長より議論の経緯など資料に基づき説明

○委員がワークショップの報告・感想

全体の流れと報告

- ・開催場所のキセラカフェは、地域の方誰でも参加出来て、公園について自由に話し合える場所。
- ・参加者には、参画と協働のまちづくり部会の話や、どのような目的のカードゲームなのかは説明せず、カードゲームのルールのみ説明した。
- ・当日のキセラカフェは、屋外で開催し、誰でも参加できる、お酒の持ち込みOK、自由に遊べて、キセラカフェを知ってもらえる場になればいいなという気持ちがあ

り、そこにぶつけさせていただいた。また、カードゲームをきっかけにキセラカフェの宣伝になれば、普段参加しない人がキセラカフェや公園のことを考えるきっかけになるかという想いでやっていた。

◇参加者からの感想や改善点

- ・悩みカードが、公園に掛け合わせた悩みが多かったので、身近なテーマがよい。
- ・カケルカードは、配付されたカードの組合せがネガティブカードになってしまっ
て、「何も意見が出ない」や「使い方がわかりにくい」などの意見があった。
- ・資源カードは、限られた種類の資源からなんとか解決策を考える点が、簡単ではな
くおもしろい。
- ・カードの感想は、「川西市の新たな発見ができた」と思惑どおりの回答があった。

◇ワークショップ in キセラカフェの感想

まったく興味がなかった人がゲームに参加するだけで、少なくとも、1つ2つの悩みを「まちをどのように良くしていこう」と考えることができるので、とても良いツールだと思う。ただ、ルールが曖昧すぎたかなと思うので、ある程度こちらでルールを決めておき、あとはローカル（地域）ルールでも設けたらよいかと思う。

リソースカードは、街中でゲリラ的にゲームをしていたら、酔っぱらいの男性が来て「こんなリソースあるよ」などそういう話でつながっていきそうだと思う。カードゲーム自体が「まち」を考えてしまう有効なモノになる気がする。

質疑応答

○A部会員

やる気や興味関心が薄い方が何を期待して参加するのが難しいと思う。

キセラカフェは、多少はまちづくりに関心がある方がそもそも参加していると思う。

カードを体験したあとにその方が活動に参加していくプロセスというのが想像できて

いなくて。そこに戦略的なものがあるのかと思った。

○B部会員

B部会では、何を期待してきてもらうかは、「特になくていいのでは」という話がある。「変な人たち」が「何かしている」と興味を持って振り向いて覗いてくれて、その時に声かけて興味本位で参加してくれたらいいかな。期待というよりも興味で来てもらいたいということ、最終プロセスにおいても、そこまで考えていないが地道に100人体験してくれたら1人2人ぐらいの方にいつも以上にまことに関心をもってもらえたらいいと個人的には思っている。

期待はしていない。基本的には0を1にするのは難しく、1を2にするのはそう難しくないと思っている。最初は1のための「何か」というきっかけにと思う。

○A部会員

キセラカフェのワークショップに子供と一緒に参加した。

子供は興味を持たなかった。一度ゲームが始まってしまうと、まわりからは「何をしているのか」わかりにくくて「何かしている」のはわかるが、「どういうことをしているか」とか「まわりで興味を持って立っている人」にどういう声かけをしていくのかを考えているのか、という所が気になった。

カード自体が白黒で目立たないのかなということもあって、子供たちの興味は引けなかった。また、キセラカフェでは、他いろんな催しがあってそちらに関心が向いていた。その辺りのデザイン性の問題とか、色や形など今後検討していくのか。

○B部会員

おっしゃるとおりで自分もそう思っていた。近くでモルックをしていて、すごく魅力的で面白そうで、遠くからでも「何をしているのか」がよくわかり、参加したいな思いながらカードゲームをしていた。

一方、カードゲームは集中するし、参加している人は、会話をしながらなので、（興味を持ってみている人に）説明はできない。会話をしながら、やり取りしないといけないと考えると、キセラカフェの外でワークショップをしたこと自体、違う場所が良

かったのではないかと思った。ただ、カードのカラーは、あえて白黒で実施した。今後、ワークショップ後の感想を聞いてから変更したいと思い、今はシンプルにそのままと思い、お金を掛けなかった。

こどもの興味に関しては、今回は対象としていなかったのので、内容もこどもがわかりやすいようにとは考えていなかった。

学校にも置いてもらいたいという話はあるが、今のカードの見直しや、ルールやわかりやすさなど、今後検討したいと思う。

(3) 提言書の作成について（両部会にかかること）

○藤本A部会長

両部会にかかることで、これからまとめる形としてターゲットを意識してまとめる必要があると思う。市から提示されている提言書案は、基本「こんなこと考えてくださいね」という程度のことで、この形式で書いてもターゲットは読まないだろうと思う。特にB部会の提言書は読まないだろうと思う、内容ではなく、そもそも興味がない方がターゲットなので。例えば、1枚目でその対象にインパクトを与えて、2枚目にいくようなターゲットを意識した工夫をしたほうがよい。

ある程度そぎ落として、資料編で、例えば市の職員なり本当に提言書を読みたいと思う方は読めばいいと思うし、ターゲットを意識したら(なので)まとめ方も工夫したほうがよいと思う。

○田中B部会長

今回、私たちが提言する内容を、市に報告書として渡すのかどうか分からない。

提言する内容を市が受け取って、市の報告書になるのか。または、こちらが提案した内容がそのまま反映されるのか、今回はどちらで提言書を作成すればよいのか。

どういうプロセスで市の提言書と合わせるのかが分からない状態で、市の提言書のスタイルだけを踏襲した。今後市としては、どういうプロセスで市民の意見を取り入れていくのかが形になっていくと思うので、お聞きしたい。

○岩崎会長

話しをまとめると、この提言はどこに向けてするのか、市はこの提言書をどのように使うのか。それにより、ターゲットが決まるのではないかということか。

○事務局

再確認させていただきたいのが、市としてお願いしていたのは、行政に対して今回のテーマ、「沢山の方々に地域のまちづくりに関わって頂くにはどうしたらいいのか。」と投げかけさせて頂いて、それを受けた委員の方々が定められたテーマが、A部会「やる気があり積極的だが取組めていない方を巻き込んでいくには」、B部会「やる気や興味・関心が薄い方を巻き込んでいくには」であり、これからどのようにして関わってもらうのかを各部会で議論を重ねていただいた結果を提言していただきたい。実際、トラップカードを作成するのは、市民、団体等である。またトリカワカードを使うのは、市役所の職員だけではなく市民や団体や子ども、川西市に詳しくない方かもしれない。実際には、様々な方が使用する。使用するときには、その方々の目線にあったことを書いていただきたい。市民の方には、〇〇を期待します。団体の方には、アドバイスとして〇〇してくださいなど。というような、アドバイスや目線というのを提言書に落とし込んで頂きたいのですが、最初に受け取るのは市なので、見せ方については、伝わりやすい状態で市に提出して頂きたい。

A部会、B部会の議論が途中であり、最終的にどのような形で提示して頂けるのか決まっていないので、今後、市が施策として実行していくのかは、具体的には施策は決まってない。

○藤本A部会長

はっきりさせたいのは、ターゲットはだれか。市が受け取るとすれば、書き方が違う。それぞれの部会でターゲットに対して書く。必要な内容は、資料にして入れておく。色々な意味で、報告書のようなスタイルでないほうがよいのではないかと思う。最初に読むのが市長であっても、市民であっても「おっと」最初に思うものでないと。市民に対して書けることが、委員のメンバーのいいところ。市は議論をうまく変換して書けない。

○事務局

市が提言書を頂き、中身のターゲットは市民である。提言書については部会でそれぞれのスタイルで提言書を作成していただく形でお任せしたいと思う。どれかのパーツは市民をターゲットに使用すると意識を持っていただけたらと思う。

ただ、これからの普及について、委員からも条件を整えばこの先も付き合う意向があるとご提案いただいた。有償での作成は、プロトタイプはできているようで、どの資料を使ったら市民に親しみやすいアプローチで使っていけるか。使いわけできるかと思う。

○岩崎先生

時間が大幅にオーバーしましたが、おもしろい議論だったと思う。

皆さんも感じていると思うが、コロナで3密をさけるあまり、人と人とのつながりができないまま1年過ごしている気がする。その中で、皆さんに議論して頂いているものが、Withコロナでどこまでいけるかわからないけれど、人と人とのつながりを作って頂いていると思う。また一方で、コロナ禍だからできたのかなと思う。3月は顔を合わせて提言したいと思うが、先の状況はわからない。しかし、そういう期待をしながら各部会が残された課題に取り組んで、私は前段としてエッセンスを加えて取りまとめたいと思う。

○ 事務局

最後の全体会の日程は、3月中を予定

3 閉 会